

マカオ・香港・広州の一带は「珠江デルタ」と称され、香港で外航船から内航船に積替えた貨物を広州まで輸送するなど、域内物流が盛んな地域です。一部の荷役は中国本土の港にシフトしていますが、コンテナ取扱量は世界第五位と、依然重要な地位にあります。今号では香港での海上輸送と台風対策についてお伝えします。

1. 香港特有の荷役「沖荷役」

香港は湾内が狭い一方で大きなターミナルを有し、船舶の往来が多数あるため、入港時には必ずパイロットが必要であり、その港湾費用が貨物運賃に反映されます。また、ハブ港としてトランシップを行う船舶も多く、コンテナターミナル混雑の影響でしばしば滞船料が発生します。これらの費用を避けるため、港に接岸せず沖に停泊したまま、台船を横付けし台船のクレーンでコンテナを積み卸すといった本船荷役が行われる場合があります。これを「沖荷役」と呼んでいます。



* 写真上：奥が本船、手前が台船(C-NKKK 提供)



台船に乗せられたコンテナは、ラッシング等を施されないまま搬送されるため、台船上での荷崩れや落下の事故が起こりやすくなります。また、本船荷役に使用されるクレーンは台船に設置されているもので、一般的にはコンテナに人力でロープをかけて吊り下げるため、荷役途中でコンテナが傾いたりすることも頻繁に発生しています。

このように、「沖荷役」の場合には荷役中事故や貨物ダメージのリスクが大きくなると言えます。

* 写真左：コンテナを運ぶ台船の様子(C-NKKK 提供)

2. 貨物事故につながる要因

上記のとおり、「沖荷役」特有のリスクに加えて、荷役を行う作業員のマインドにもしばしば問題が見られます。

日本では、難しい荷役、新しい物流を始める際には関係者間でミーティングを行うのが一般的ですが、香港では事前の準備なくそのまま荷役を開始することがほとんどです。また、貨物の濡れ損害に関しても、十分な注意を払っていないことが多くあります。港湾倉庫のキャパシティが少なく、恒常的に屋外に野積みされるのに加え、港湾施設のメンテナンスが行き届いておらず、大雨や高潮があった際にうまく排水できない場所では浸水被害も多く発生します。



そのほかにも、貨物の知識を持たない税関職員によって通関時にバリア梱包が破られてしまい、香港から中国奥地まで長時間を多湿の状態での輸送されることで、貨物に錆が発生するといったケースも報告されています。

このような貨物ダメージを防ぐためには、雨水の侵入を防ぐ仕様に梱包を変更したり、透明のバリア梱包にすることで開梱することなく税関検査を受けられる状態にしたりする等の対策が有効です。

3. 台風への備え

今夏は日本でも台風の被害が多数ありましたが、香港も台風の通過位置にあり、例年台風による被害が報告されています。昨年の台風13号(Hato)、今年の台風22号(Mangknut)は香港の建物や貨物にも大きな損害をもたらしましたが、人身への被害は最小限にとどめられています。これは、香港では気象庁が長年のデータに基づき台風接近の予測を立て、数時間前に住民へ台風シグナルを通知する仕組みができていたためです。例えば、シグナル3であれば学校閉鎖、8では会社閉鎖といったレベルが定められており、これに合わせて香港の人々はあらかじめ避難準備を行うことが可能となっています。

日本のように同じ情報でも個々に対応が異なるのではなく、台風シグナルという明確な基準にしたがって対応が統一され、被害や社会の混乱を最小限に抑えることができているとのことですので、日本でも参考にしたいところです。

【弊社グローバルネットワーク ~弊社代理店のご紹介~】

香港での貨物事故につきましては、下記の弊社クレーム代理店、弊社コマーシャル損害部または営業課までご連絡いただけますようお願いいたします。

THE TOKIO MARINE AND FIRE INSURANCE CO. (H.K.) LTD.

27A FLOOR, UNITED CENTRE, 95, QUEENSWAY, HONG KONG, CHINA

TEL: (852) 25294401 Fax: (852) 25292509

E-Mail: claims@tokiomarine.com.hk



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html

i パイロット：船舶を安全かつ効率的に入出港、航行させるため、その港や水域の事情に精通した専門家 (<http://pilot.or.jp/about/index.html>, 日本水先人会連合会)